

Cトラック

シェアリング・リスク

満塩尚史（順天堂大学）

米澤一樹（サイバーレジリエンス CTO）

コンピューティング環境におけるリスク管理は、インターネットによる接続手段の多様化やクラウドサービスの普及による責任分担の多様化の中でシェアリング・リスクによるリスク管理に変化してきた。生成 AI の普及による行動主体の多様化が進んでいる今、新しい形のシェアリング・リスクへの道筋を探りたい。

13:00-14:00 クラウド・生成 AI 時代におけるリスク・シェアリング 満塩尚史（順天堂大学 健康データサイエンス学部 准教授）

クラウドサービスや生成 AI のリスクについて、ISMAP 評価制度や生成 AI に関するガイドライン等から説明する。また、これらのクラウドサービスや生成 AI は、他の機能に組み込まれていく。複数のサービスが組み合わせるため、いわゆる共有責任モデルを検討する必要がある。ここでは、セキュリティ関連の評価制度の在り方等を踏まえて、リスクをどうシェアするかを説明する。

14:15-15:15 AI 時代を迎えてのセキュリティの在り方とは ～切り離しの SE-CURE から共有の CO-CURE へ～ 米澤一樹（サイバーレジリエンス CTO）

セキュリティ：Security の語源はラテン語の「Se-cure：心配から切り離す」と言われており、こんにちのセキュリティ技術やフレームワークはすべて「切り離す」ことで安心を確保する」考えに基づいている。しかし、その「切り離し」が「せめぎ合い」や「衝突」を生んで新たな心配を生み出すという皮肉を招いている一面は否定できない。そこで、AI 時代を迎えてのセキュリティの在り方として、「心配を共有する Co-cure（造語）」という考えを提案し、それに基づく、新たなセキュリティの在り方を議論するきっかけとしたい。

15:30-16:45（75分）パネルディスカッション 今後のシェアリング・リスクの在り方（講演者＋トラック参加者）

各講演に対する質問・コメント・意見交換を行う。特に、従来通りのリスクの共有責任モデルというシェアリングだけでなく、提案された Co-cute というシェアリング・リスク方法に関する意見交換を行う。